胸躍る春 ありがとう

済々黌 全国から同窓生集う

「黄色の大応援」で圧倒

試合終了後、済々黌ナインの健闘をたたえるアルプス席の同窓生たち＝30日午後、甲子園球場

「黄色の大応援」に甲子園が揺れた―。選抜高校野球大会3回戦で、済々黌が済美（愛媛）と熱戦を繰り広げた30日、アルプス席は菜の花が咲き乱れるような観衆で埋まった。主役は全国から集まった同窓生たち。「感動をありがとう」。55年ぶりのセンバツに胸を躍らせた春。大声援で相手を圧倒した同窓生らからは、選手への感謝の言葉が相次いだ。

【1面参照】

接戦の末、1―4の惜敗。整列したナインが頭を下げると、済々黌応援席の三塁側アルプス席は温かな拍手と歓声に包まれた。「いい思い出になった。頑張った後輩たちに感謝したい」。1958年の優勝メンバーで右翼手だった上村啓明さん(71)＝さいたま市＝は試合を振り返った。

初戦に続き、球場周辺は黄色の帽子やジャンパー姿があふれた。三塁側アルプス席の入場券は試合開始2時間前に売り切れ。部活などで在校生の応援は初戦の半分以下となったが、土曜日とあって、全国各地から同窓生が続々と駆け付けた。

「同窓会より人が集まる」と、旧友との再会を喜ぶ久我真功さん(52)千幸さん(52)夫婦＝大津市。吉永圭介さん(75)＝奈良市＝は、集合場所で「後輩たちがすばらしいプレゼントをくれた」と目を細めていた。

試合は1点を争う緊迫した展開。アルプス席では幅広い世代が一丸となり、熱い声援を送った。黄色のメガホンを手にした中島田加里さん(23)＝東京都大田区＝は仲間と肩を組み、「みんなが一つになった感じ」と校歌を大合唱。親と一緒に懸命に応援する子どもたちの姿も目立った。

90年に夏の甲子園に出場した池田満頼監督のチームメートも7人が集合。エースだった右田淳さん(40)＝熊本市北区＝は「また一回り大きくなって、夏も甲子園に連れてきてほしい」と選手たちにエールを送った。

（小林義人）

「夏も頼むぞ」

留守番部隊も超満員で声援

「よく頑張った」「夏も頼むぞ」―。熊本市中央区黒髪の済々黌高で30日、甲子園のテレビ中継を見守った〝留守番部隊〟は、選手たちの健闘に惜しみない拍手を送った。

大画面スクリーンがある同校会議室には、生徒やOBら約100人が詰め掛け、立ち見が出る〝超満員〟。五回の同点シーンではメガホンをたたいて歓声を上げ、最高潮の盛り上がり。八回にリードを許しても「まだ分からんぞ！」と、最後までナインへの大声援は途切れなかった。

3回裏、満塁の好機を逃し悔しがる卒業生や生徒たち＝30日午後、熊本市の済々黌高（横井誠）

安藤太一捕手の級友の西山大志さん(17)は「みんな頑張ってくれた。どのプレーも気迫を感じた」。OBの齊木信吾さん(57)＝熊本市中央区＝は「残念な結果だが、夏もある。成長して、また甲子園に出場してほしい」と飛躍を期待した。

（前田晃志）